Annual Activity Report

2017-2018

認定NPO法人テラ・ルネッサンス / 2017 年度年次報告書



Terra Renaissance

ひとり一人に未来をつくる力がある

認定NPO法人 テラ・ルネッサンス









支援の変化を支えてくださる、皆さまへの感謝

2017年度は、海外の各事業地においても、元子ども兵、地雷被害者など紛争で影響を受けた人々への支援を、大きく伸ばすことができた一年でした。その過程で、自分たちや、自分たちの地域を、自分たちで「変える」ことができると気づいた人々が、「誇り高く生きていく姿」に、勇気をもらっています。これらの変化を支えてくださっているのは、この年次報告書をご覧いただいている皆さまです。皆さまのご支援に、心から感謝申し上げます。



理事長
海外事業部長
ブルンジ事務所長
小川真吾

活動理念を体現し、努力を積み重ねる決意

コンゴ民主共和国にて、国連開発計画（UNDP）との協働事業がはじまるなど、国際機関や政府系機関との連携で、海外支援を行うことが多くなってきました。これも、支援者の皆さま、スタッフの熱意によって、設立以来、地道に海外支援を続けてきたことを、信頼してもらえたからだと確信しています。同時に、今までに以上に、多くの市民の皆さまから関心（ご支援）を頂けるように、積極的な情報発信、情報公開に努め、「私たちは一人ひとりに『未来をつくる力』があると信じ、市民の可能性を追求しています。」という活動理念を体現する「NGO（非政府組織）」であるように、努力を積み重ねていく決意も新たにしています。



創設者・理事
国内事業部長
佐賀事務所長
鬼丸昌也

「自立」と「自治」を取り戻していくための支援

2017年度、カンボジアでは紛争による障害者100世帯への支援を開始し、ラオスでも不発弾に汚染された村で、養蜂によって村人たちの適応能力（レジリエンス）を向上させる新たな事業を開始することができました。紛争で影響を受けたアジアの人たちが、持続的なライフスタイルと伝統文化を守り、また取り戻していく「自立」と「自治」のためのご支援に感謝を申し上げます。



アジア事業マネージャー
カンボジア事務所長
江角泰

スタッフ一覧 - 世界で活動する仲間たち -

本部事務局(京都)


創設者・理事
国内事業部長・佐賀事務所長
鬼丸昌也


PRチーム
鎌田久美子


PRチーム
支援者サービス担当
上野知子


ARチーム
マネージャー
栗田佳典


管理部長
隅田千恵


管理チーム
牧野由起子


PRチーム
法人担当
藤森みな美


PRチーム
マネージャー
小田起世和

ARチーム = アウェアネス・レイジング チーム ／ PRチーム = パブリック・リレーションズ チーム

佐賀事務所


PRチーム
佐賀事業
ウェブマーケティング担当
島 彰宏

大槌事務所


理事・大槌事務所長
大槌復興刺し子プロジェクト
マネージャー
吉田真衣


生産管理担当
佐々木加奈子


販売管理担当
佐々木静江


会計担当
黒澤かおり

本部事務局インターンシップ(研修生)


岡本美穂


宮崎あゆみ


高本穂乃花


名倉早都季


長久実由


堂前ひいな


土井清加


渡邉有衣


田畑勇樹


中嶋春香


池田浩貴


吉金優佳


杉野安曇


津田理沙


大野真以


亀岡洸太

カンボジア事務所


カンボジア事務所長
アジア事業マネージャー
江角 泰


アジア事業
サブマネージャー
延岡由規


裁縫技術トレーナー
サムリット・ラウ


プロジェクトオフィサー
リー・サリアップ


ドライバー
アシスタント
カーイ・サロン


フィールド事務所警備員補佐
家畜飼育担当
ソーン・サヴィ


プロジェクトコーディネーター
クン・チャイ


経理担当
ヨート・イェト


建設担当
ブン・トゥン


事務所警備員
ホウト・ヒアト


フィールド事務所警備員
チュン・ソーン

ドライバー
アシスタント
ヴィート・ヴィ

ラオス事務所

プロジェクトコーディネーター
センケオ・シーソンブン

プロジェクトオフィサー
ノックナー・ビムミーサイ

ブルンジ事務所

アフリカ事業
サブマネージャー
古岡 薗

洋裁訓練講師
ンチャホバカナ・ゴルディエン

ドライバー
マサボ・ディエリ

養蜂訓練講師
ムサ・ナンシュティ

トレーニングオフィサー
ムレルグワ・ゼノン

清掃員
マニラキザ・アナニアス

フィールドオフィサー
ジョゴリ・ディオメッデ

セクレタリー
ンデレイマナ・フェリキール

ヘアドレッシング訓練講師
ドゥセンゲ・ディウドン

コンゴ事務所

理事長・海外事業部長
ブルンジ事務所長
小川真吾

コンゴ事務所長
テオフィー・チシバンジ

洋裁訓練講師
デオ・カハリ

倉庫管理担当
ジャンピエール・チルフラ

警備員
フォーステン・チャブィヌエ

アフリカ事業
コーディネーター
トシャ・マギー

プロジェクトマネージャー
エジマナ・パシフィック

フィールドスタッフ
マタパノ・ルワバグマ

フィールドスタッフ
クロピス・チンゴンベ

倉庫管理担当
エマニュエル・ントゥバ

フィールドスタッフ
ジョセフィン・ブクル

フィールドスタッフ
ピーター・バセネネ

会計補助
マオンビ・カンツ・ジョングリ

ウガンダ事務所

アフリカ事業
マネージャー
鈴鹿達二郎

ウガンダ事務所長
オテマ・ジミー

能力向上支援担当
(木工大工訓練講師)
オドン・ベンソン

能力向上支援担当
(服飾デザイン訓練講師)
アチャー・ポスコ

プロジェクトコーディネーター
(南スーダン難民支援)
ジェームズ・カオ

BHN支援担当
アケチ・エヴァリン

調理清掃担当
アシアンゾ・ジャネット

木工大工訓練講師
エデマ・ジェームズ

セキュリティ担当
オチャカ・ジャコブ

BHN支援担当
アティム・クリスティーン

セキュリティ担当
オモヤ・チャールズ

ドライバー
オポカ・パトリック

ドライバー
アイェラ・ジョージ

フィールドスタッフ
シティマ・ケミス

調理清掃担当
マコミコ・サラ

セキュリティ担当
エベル・ピーター

能力向上支援担当
(洋裁訓練講師)
アニェコ・ビッキー

管理補佐
オケロ・リチャード

能力向上支援担当
(洋裁訓練講師)
オコト・ジョセフ

管理・会計補佐
アワチャンゴ・コンシネイト

ロジスティック担当
ミシェル・ビチュラ

BHN支援担当
スーザン・ギフト

洋裁訓練講師
アクル・ジョアン

洋裁訓練講師
オダマ・マイケル

心理社会支援担当
オジャラ・サンデー

BHN支援担当
オチャカ・グレース

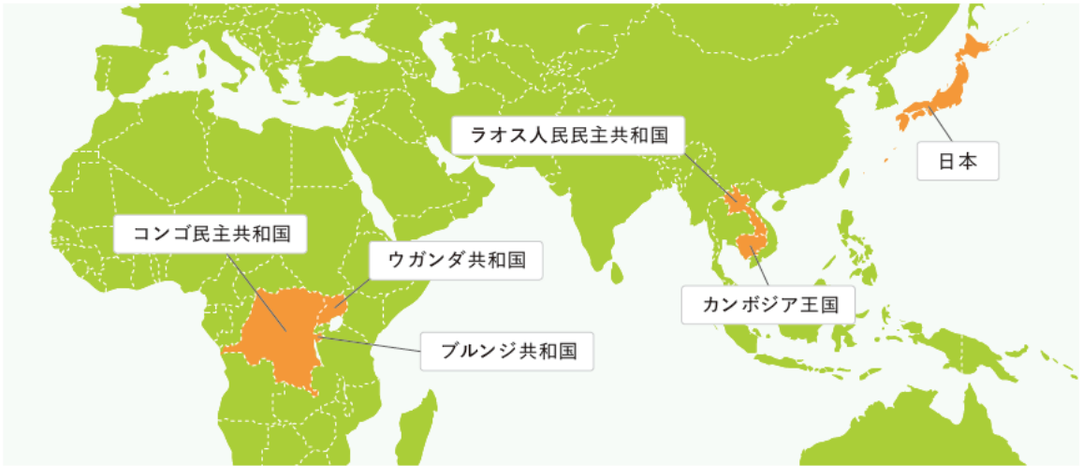
セキュリティ担当
ドゥク・ジョセフ

フィールドスタッフ
ステラ・バヨア

木工大工訓練講師
エチマ・アイザック

プロジェクトオフィサー
ワル・チャールズ

活動地域・内容 / 解決に取り組む課題



コンゴ民主共和国	●元子ども兵及び紛争被害者エンパワーメントプロジェクト ●紛争の影響を受けた脆弱層に対する社会経済的統合促進プロジェクト
ウガンダ共和国	●元子ども兵社会復帰支援プロジェクト　●不法小型武器問題啓発プロジェクト ●元子ども兵社会復帰支援プロジェクトにおける長期的インパクト評価事業 ●難民居住区におけるPSNsに対するオーダーメイド型人道支援プロジェクト ●難民居住区及びホストコミュニティにおける自立支援プロジェクト
ブルンジ共和国	●紛争被害者及び貧困層住民の能力開発を通したレジリエンス向上プロジェクト ●青少年育成パイロットプロジェクト
カンボジア王国	●地雷埋設地域村落開発支援プロジェクト　●地雷撤去支援プロジェクト ●地雷埋設地域の脆弱な障害者家族への生計向上支援プロジェクト
ラオス人民民主共和国	●不発弾撤去支援プロジェクト ●不発弾汚染地域における養蜂の技術向上と普及を目指した“farm miel”プロジェクト
日 本	●啓発活動（講演、ワークショップ、スタディツアー、パネル展示など） ●政策提言（武器貿易条約締結に向けたキャンペーン及び政策提言活動など） ●東日本大震災復興支援活動（ともつな基金／大槌復興刺し子プロジェクト）


地 雷

世界には 6 千万個 ～ 7 千万個もの地雷が現在も残されており、15 万人～20 万人が犠牲になっています。


小型武器

年間 50 万人が小型武器の犠牲となっています。また、子ども兵が増える原因の一つにもなっています。


子ども兵

18歳未満の子どもの兵士が、世界には最低でも25万人（19ヶ国）も存在すると言われています。その内の8ヶ国が、アフリカに集中しています。


平和教育

講演会などを通し、紛争の事実を伝え、「私たちに何ができるのか」を考える機会を提供しています。

目的の世界 テラ・ルネッサンスの目的（ヴィジョン）

すべての生命が安心して生活できる社会（＝世界平和）の実現

使命の樹 テラ・ルネッサンスの使命（ミッション）

当会の事業を通じ、人々に『次世代に対する責任』を啓発し、
それぞれが個人、家庭人、社会人、そして地球市民として、
未来の子どもたちの生活をも視野に入れた生活（簡素な生活）を
実践することにより、人類共通の理想『世界平和』を実現する。

理念の土壌 テラ・ルネッサンスの活動理念

1. 私たちは一人ひとりに「未来をつくる力」があると信じ、市民の可能性を追求しています。
2. 私たちは内なる変化がすべての変化の始まりであり、変革の主体者は私自身であることを理解しています。そして、他人も変革の主体者であることを理解し、相手を尊敬しています。
3. 私たちはあらゆることは常に変化することを理解し、あきらめずに活動し続けています。



ひとり一人に未来をつくる力がある

テラ・ルネッサンスのすべての活動は、設立目的（ヴィジョン）を追求するために行われます。
ヴィジョンを達成するために、責任を持って果たさなければならない任務が使命（ミッション）です。
そして、すべての活動の指針となるのが、活動理念です。



カンボジアで地雷被害にあった方々をはじめ、紛争被害の影響を受けた人を対象に家畜銀行として実施した『牛』を提供した際の様子。

「自分の家ほどいいものはない。」村の自立のモデル、オウチ・コンさん



ロカブッス村に住むオウチ・コンさん。以前は他の村人と同じように出稼ぎに行ったり、借金をして始めたキャッサバ栽培の値崩れによって、さらに借金を抱えるという状況にありました。

テラ・ルネッサンスの支援によって始まった家畜銀行によるアヒルの貸し出しのほか、飼育訓練を受けたことで自ら鶏の飼育もはじめました。鶏は、7羽から繁殖を始めて、これまでに日本円で22万円相当の収入を得たそうです。また、アヒルは5羽貸し出しされ、すでに70羽になりました。さらに、当会から配布した種も含め、30種類の野菜や果物が畑で栽培されています。

「出稼ぎと今の生活とでは、どちらがいいですか？」という質問に対して、「自分の家ほどいいものはない」という返事がありました。収入源を多様化させ、採れた野菜を近所に配るコンさんに、「自立」への道を見ました。

国際協力事業 アジア

2017 → 2018 Asia Region Project CAMBODIA LAOS

アジアでは、カンボジアとラオスの2ヶ国で、地雷＆不発弾撤去を進めるとともに、地雷や不発弾の被害者を含めた障害者世帯やコミュニティへの生計向上支援および教育支援を実施してきました。

カンボジアでは、引き続き機械チームの運営費を提供し、地雷撤去活動を進めることができました。また、地雷埋設地域の3村において、村人たちの「自立」と「自治」を目指した村落開発支援を実施し、農業の専門家育成、家畜銀行を設立しました。新たにバッタンバン州の地雷被害者などの障害者100世帯への生計向上支援を開始。一方、ラオスでは、シエンクアン県において、2017年7月まで不発弾撤去チームへ活動資金を提供するとともに、10月から同県の不発弾汚染地域の2村を対象に養蜂事業を開始しました。



［ カンボジア事務所 ］
アジア事業マネージャー
カンボジア事務所長
江角 泰

課題と展望　村人の農業技術の実行が、コミュニティの変容に

カンボジア、ラオス両国とも、村人たちが、紛争やグローバル経済の影響で失われつつある豊かな自然資源と持続的なライフスタイルを、「自立」と「自治」によって守り、取り戻していくことが重要になっています。カンボジアでは、家畜銀行やオーガニック野菜の栽培などで自然の循環を取り戻し、ラオスでは、まだ豊かな森の残る村で、養蜂を発展させて森を守り、収入を増やします。その中での課題は、両国ともに村人たちが訓練した農業技術を実行することがあげられます。そのためにカンボジアではモデルファームの建設によるモデル農家の育成を始め、ラオスでも村での養蜂組合の設立と、村に養蜂の専門家を育成する予定です。実際に村人たちの様子を見ていると状況は様々ですが、なかには積極的な姿勢で取り組む村人もいることから、モデル農家としての活躍に期待が高まります。さらに、その様子に影響を受けた他の村人たちが変わり、コミュニティ全体が変わると、他の地域にも大きな影響を与えられると考えています。

1 ［ カンボジア ］ 地雷埋設地域村落開発支援プロジェクト

事業の目的	地雷埋設地域の貧困削減。地雷被害者や、元子ども兵、小型武器の被害者を含む戦争被害者が、自立して生活できるようにサポートをするとともに、新たな地雷・不発弾事故を防止すること		
事業地域	カンボジア / バッタンバン州	受益者数（累計）	約400家族
受益者カテゴリー	地雷埋設地域に住む貧困層の村人 地雷被害者、障害者	事業実施期間	2006年10月～継続中





［ ロカブッス村 ］ 2016年度に引き続き、灌漑水路と揚水ポンプを利用した家庭菜園の推進を進めています。毎月の自治会では２種類ずつの野菜の種を配布するとともに、鶏とアヒルの飼育専門家２名を村の中に育成する訓練を実施しました。

自治会では、村で育成した専門家が配布する野菜の栽培方法を村人たちへ訓練するとともに、村に家畜銀行を設立し、鶏とアヒルの貸し出しを開始しています。2年前に建設したファーマーズ・マーケットでは、マーケットで販売する村人たちが増加し、牛銀行で貸し出した雌牛２頭のうち１頭に子牛が生まれました。やぎ銀行のヤギは、2家族目への貸し出しをしているところです。1期目にヤギを貸し出した2世帯は、そのヤギを販売し収入を得ることができました。

［ プレア・プット村 ］ 2つの貧困コミュニティで月例自治会を開催し、野菜栽培訓練を実施するとともに、ヤギ銀行を設立し、4世帯へヤギの貸し出しをしています。2世帯ではすでにヤギが繁殖し、返却できる状態になっており、次の村人へヤギを貸し出す予定です。雨季に水が十分にあるときには、野菜の栽培だけで、1日5ドルの収入を得ていた村人もいます。

基礎教育支援では、プレア・プット村小学校の古い校舎で、倒壊していた壁の一部と穴が空いていた屋根の一部を補修し、授業で使えるようになりました。またプレア・プット村では、2015年に建設した幼稚園で、小学校へ通えない小学生への授業をサポートするとともに、朝とお昼の2回の給食を提供することで、最貧困層の子どもたちの基礎教育の継続性も向上しています。

［ サムロン・チェイ村 ］ サムロン・チェイ村では、2年前に設立した牛銀行の貸し出している雌牛2頭に子牛が生まれ、順調に生育しています。また毎月の自治会で野菜の種を配布するとともに、現地NGO（CRDNASE）の農業専門家による野菜栽培訓練を実施しました。

2 ［ カンボジア ］ 地雷埋設地域の脆弱な障害者家族への生計向上支援プロジェクト

事業の目的	地雷埋設地域に住む障害者の生計向上	事業地域	カンボジア
受益者数（累計）	105世帯（JICA草の根パートナー事業100世帯）	事業実施期間	2017年4月～2021年1月
受益者カテゴリー	地雷埋設地域に住む貧困層の地雷被害者などの紛争被害者を含む障害者家族		



100世帯を対象に、生計向上支援をスタート

地雷埋設地域に住む障害者家族の生計向上支援では、JICA草の根パートナー事業として2017年4月にバッタンバン州カムリエン郡の障害者100世帯を対象に、生計向上支援を開始しました。具体的な取り組みは、以下の通りです。

① グローバル経済のリスクとお金に関するワークショップを開催。② 農業用の水を確保するため、各世帯への水瓶の提供、もしくはため池の掘削。③ 牛、やぎ、鶏、ハリナシミツバチの家畜銀行を設立および飼育技術訓練の実施。④ 全100世帯を対象に有機野菜栽培訓練を実施。とりわけ、①については、理解度テストで9割以上がワークショップの内容を理解しています。さらに④についても、毎月２種類の野菜の種を配布し、家庭菜園を促進しています。またJICA事業の対象になっていない障害者世帯5世帯へも水瓶を提供し、生活に必要な水を確保するサポートをしました。



1 対象世帯へ鶏を提供するときの様子、鶏が暴れないように脚を持っています。2 水瓶を受け取った地雷被害者の村人が、笑顔を見せてくれています。

3 ［ カンボジア ］ 地雷撤去支援プロジェクト

事業の目的	地雷による脅威を削減することで、 地雷被害を受けたカンボジアの農村地域の社会経済復興に寄与する		
事業地域	カンボジア / 北西部地域	受益者数(累計)	約2,316名、368家族
受益者カテゴリー	地雷原と地雷原周辺に住む村人	事業実施期間	2001年～継続中



1

34万㎡の土地の地雷を撤去、140名の土地を安全に

2017年4月から2018年3月まで、地雷を撤去するために必要な灌木を除去する機械チームの運営費の提供を行いました。2017年12月までに242,277㎡の土地を整備し、地雷探知犬チームと一緒に活動することで、339,641㎡の土地を安全にすることができました。機械チームの活動により、第３四半期が終了した時点で、当初第４四半期までに予定していた面積を3%上回るスピードで、地雷や不発弾を撤去することができました。これによりバッタンバン州ラタナック・モンドル郡とサムロート郡の5箇所の地域に住む合計29家族、140名 (2017年12月時点) に安全な土地を提供することができました。



2

1 地雷の爆破処理の様子。地雷を発見し爆薬を仕掛けたのち、十分に距離をとった場所から遠隔で爆破します。
2 実際に撤去された地雷や不発弾。対人用、対戦車用など機能の違いによって、形状や大きさが異なっています。

4 ［ ラオス ］ 不発弾撤去支援プロジェクト

事業の目的	不発弾汚染地域のコミュニティの安全を確保し、開発支援につなげるとともに、 住民の不発弾によって死傷する危険性を低減する		
事業地域	ラオス / シエンクアン県	受益者数(累計)	10,881名
受益者カテゴリー	不発弾汚染地域に住む住民	事業実施期間	2009年1月 ～ 継続中

239発の不発弾を撤去、これまでに10,000名以上の土地の安全を確保

提携する不発弾撤去団体MAG-Laoの第31不発弾撤去チームへ1年間の活動資金の提供を2016年8月から開始し、シエンクアン県で2017年7月までに381,375㎡、239発の不発弾を撤去し、10,001名が安全な土地を受益しています(2017年度:53,464㎡、31発、3,372名)。いまだ不発弾に汚染されている大地の1%も撤去できていないシエンクアン県において、田んぼや畑、家の周りなど人々の生活圏内の不発弾を撤去し、可能な限り安全な土地を確保していくことは、人々が安心して暮らしていくために欠かせないことです。

5 ［ ラオス ］ 産学民連携による持続可能な森林保全のための自然共生型産業の普及活動
ラオス不発弾汚染地域における養蜂の技術向上と普及を目指した“farm miel”プロジェクト

事業の目的	不発弾汚染地域でも安全に活動ができ、森林を保全し、自然と共生しながら、 直接的な森林利用の代替となる自然資源を活用した産業を確立する		
事業地域	ラオス / シエンクアン県	受益者数(累計)	67家族
受益者カテゴリー	不発弾汚染地域に住む住民	事業実施期間	2017年10月 ～ 2019年3月

養蜂・はちみつの生産から、生計向上を目指して

2017年10月よりシエンクアン県ペック郡の2村を対象に養蜂事業を開始しました。養蜂技術訓練を実施し、これまで伝統的な巣箱を利用してきた村人たちに近代的な巣箱を紹介し、養蜂の知識や技術を提供することで、蜂蜜の収量の増加を目指しています。提供した２種類の巣箱以外にも、訓練を受けた村人たちが自分で多くの巣箱を製作し、養蜂を拡大しているところです。2018年2月に植生調査、ベースライン調査を実施し、蜜源となる花の種類や開花時期、村人たちの生計やブランディングするためのデータを収集しました。





ウガンダ北部で実施した南スーダン難民への緊急支援において、
衛生面でも重要な石鹸など、生活に必要な物資を手渡すことができました。

\ アフリカ事業 - コンゴ・活動トピック /

コンゴの紛争被害者の女性、ムテケルワさんからのメッセージ



テラ・ルネッサンスが国連開発計画（UNDP）のパートナーとして実施したプロジェクトにより、私たちは生産者協同組合を組織化し、付加価値のある乳製品を製造・販売し、収入を向上することが出来ました。また、女性たちがグループで貯蓄する活動も始めました。

このプロジェクトのおかげで、家族の生活環境は変化し、コミュニティでの社会的なつながりが強くなりました。これまで夫が何もかもしてくれることを期待していた女性も、自分たちで何かを生み出すことが出来るようになり、家族や協同組合の社会的な発展に貢献することが出来るようになりました。このような機会を得られたことに、とても感謝しています。

国際協力事業 アフリカ

2017 → 2018 AFRICA REGION PROJECT UGANDA CONGO BURUNDI

ウガンダでは、元子ども兵34名の自立支援のほか、事業の長期的インパクト評価のために、過去に支援した元子ども兵の後追い調査を開始しました。また、同国の南スーダン難民への緊急支援物資の配布とともに、難民と近隣住民双方に自立支援を開始。コンゴでは、紛争被害を受けた女性たちに農業支援・洋裁訓練を行い、新たに元子ども兵や孤児たち250名に初等教育の機会を提供しました。また、国連開発計画（UNDP）とともに、紛争被害を受けた脆弱層に収入向上・生産者協同組合の組織化支援を行いました。ブルンジでは、養蜂・窯業技術を得た対象者に、新たに農作物の一次加工技術訓練を行ったほか、見本市への出店などを通して製品の販促機会を提供しました。また、生産者協同組合の組織化支援により3年間のプロジェクトを完了しました。



理事長
海外事業部長
ブルンジ事務所長
小川 真吾

課題と展望　脆弱な状況にある個人と地域の、レジリエンスの向上

各対象地域において、子ども兵や孤児など紛争の被害を受けた人々が、脆弱な状況に置かれても、自立と自治の促進を通して、いかにその状況に適応していけるかが重要となります。

ウガンダでは、南スーダンからの難民の同国での長期的な生活が想定されるため、難民と受け入れ先となる近隣住民双方がともに自立に向けての職業訓練に取り組み、収入を得られるかが今後の課題になります。コンゴでは、孤児と元子ども兵が武装グループに（再）徴兵されず、持続的に教育を受けるために、彼らの受け入れ家族が貧困から脱却し、安定した生活ができるような環境作りが大きな課題です。ブルンジでは、組織化された生産者協同組合において、組合員が協力して組合を運営・管理していくとともに、持続的に収入を得られるように学んだ技術による生産性を向上していくことが課題です。そのため、3ヶ国において、特に脆弱な人々への職業訓練など自立と自治を促進する事業を通して、脆弱な人々の適応能力の向上とともに、地域全体の適応能力（レジリエンス）の向上を目指しています。

1 ［ ウガンダ ］元子ども兵社会復帰支援プロジェクト

事業の目的	元子ども兵が社会復帰するために必要な能力を身につけ経済的に自立するとともに 地域住民との関係を改善しながらコミュニティで安心して暮らせるようになること		
事業地域	ウガンダ / 北部地域	受益者数(累計)	1,352名 (内、元子ども兵は208名)
受益者カテゴリー	元子ども兵及びその家族 最貧困層住民	事業実施期間	2005年5月～継続中



1

16名の元子ども兵（第9期生）を対象に、社会復帰支援（職業訓練、基礎教育ほか）を実施

2017年4月に受け入れた第9期生の元子ども兵16名を対象に、社会復帰のために必要な洋裁や木工大工、ビジネス講習等の職業訓練、基礎教育、平和教育、またカウンセリング等の心理社会支援を実施しました。受益者の技術習得レベルに差があるものの、全員が安定した状態で生活・訓練に取り組んでいます。また、2016年11月にフルタイムの訓練を修了した第8期生の元子ども兵18名と最貧困層住民へ洋裁店や木工大工店の開業支援を行い、収入額に差があるものの全員が外部からの援助に依存することなく生活できるようになっています。



2

1 訓練を終了したのち開業した木工大工店で働き、ベッドの制作などで収入を得られるようになった元少年兵。
2 社会復帰支援センターにて、洋裁訓練を受ける元少女兵。

2 ［ ウガンダ ］元子ども兵社会復帰支援プロジェクトにおける長期的インパクト評価事業

事業の目的	当会の支援により社会復帰した元子ども兵の現状を調査することで、 社会復帰プロジェクトの長期的なインパクトを評価、分析すること、及び、それにより、 対象者（地域）の自立と自治を促進するためのより効果的な支援アプローチを模索すること		
事業地域	ウガンダ / 北部地域	受益者数(累計)	76名（第1期生～3期生）
受益者カテゴリー	当会での社会復帰支援を 完了した元子ども兵	事業実施期間	2017年4月～継続中

社会復帰支援を受けた元子ども兵52名、卒業後の現在の暮らしを調査

当会の支援を受けた元子ども兵52名を対象に、現在の経済状況や資産、社会関係性などを量的・質的に調査しました。現時点では、子ども兵が長期的に安定した生活やウェルビーイング（生きがいのある暮らし）を維持するためには、職業技術の向上だけでなく、対象者のレジリエンスや自尊心が高まる環境を作ること、また周囲との「関係性」に着目する視点が重要であることが明らかになっています。今後、調査を継続することによって得られた結果が、現在の社会復帰支援プログラムに反映されることが期待されます。



1

1 社会復帰支援を卒業した、元子ども兵への聞き取り調査の様子。

3 ［ ウガンダ ］不法小型武器問題啓発プロジェクト

事業の目的	不法小型武器の流通・拡散が、コミュニティに及ぼす悪影響について 一般市民の意識が向上すること		
事業地域	ウガンダ共和国 / カンパラ市	受益者数(累計)	ー
受益者カテゴリー	一般市民	事業実施期間	2005年5月～継続中

不法に流通する小型武器の問題について、市民へ向けた啓発イベントを開催

国際不法小型武器問題行動週間に合わせて、現地NGO(ウガンダ小型武器行動ネットワーク)を通して不法小型武器問題の啓発イベントの開催を支援し、一般市民に同問題について考える機会を提供することができました。

4 ［ ウガンダ：南スーダン ］難民居住区における PSNs に対するオーダーメイド型人道支援プロジェクト

事業の目的	対象世帯それぞれの状況と特性に応じて必要な物資またはサービスを供与することで、対象者がBHN（人間としての基本的ニーズ）を満たすこと		
事業地域	ウガンダ/アジュマニ県 南スーダン難民居住区	受益者数（累計）	2,663名
受益者カテゴリー	南スーダン難民	事業実施期間	2017年8月～継続中

難民の方々へ緊急支援、生活に必要な物資を提供

難民居住区で慢性疾患を抱えている人、高齢者、シングルマザー等の「特別なニーズを持つ人々（PSNs）」を中心に、最も脆弱な状況に置かれている人々に対して、状況に応じてきめ細かいニーズを把握し、それを満たすための必要な物資を207世帯1,239名に対して供与しました（石鹸、生理用品、蚊帳、ポリタンク、皿、サンダル、穀物の粉等）。また居住区内の小学生とセカンダリースクールの計1,424名へ学用品・衛生用品を提供し、うち小学生469名へオーダーメイドの制服を提供して教育支援を行いました。



1 緊急物資を提供したときの様子。個人によってそれぞれ状況が異なるため、必要とされる物資の提供には、事前のヒアリング調査が重要になる。

5 ［ ウガンダ：南スーダン ］難民居住区及びホストコミュニティにおける自立支援プロジェクト

事業の目的	難民居住区の南スーダン難民及びホストコミュニティの最貧困層が、職業訓練により必要な能力を身につけ経済的に自立すること		
事業地域	ウガンダ/アジュマニ県 南スーダン難民居住区	受益者数（累計）	南スーダン難民21名 ホストコミュニティ住民21名
受益者カテゴリー	南スーダン難民及び ホストコミュニティ最貧困層住民	事業実施期間	2018年2月～継続中

難民居住区内に洋裁訓練施設、木工大工訓練施設、木工大工作業用屋根、トイレ等、職業訓練に必要な施設を設置しました。また訓練に必要な資機材の調達を行い、2018年3月から受益者計42名（洋裁21名、木工大工21名）が職業訓練を開始しました。また社会経済的に脆弱な環境に置かれている受益者が平日フルタイムの訓練に専念できるよう、訓練施設での受益者への給食提供と、受益世帯に対して生活費クーポンを支給し生活必需品を入手できるようサポートを開始しました。

6 ［ コンゴ ］元子ども兵及び紛争被害者エンパワーメントプロジェクト

事業の目的	元子ども兵及び紛争被害者がエンパワーメントされ、BHN（人間としての基本的なニーズ）を満たして生活できるようになること		
事業地域	コンゴ/東部、南キブ州、 カレヘ行政区、カロンゲ区域	事業実施期間	2009年6月～継続中
受益者数（累計）	直接受益者：931名 （内訳：元子ども兵171名、性的暴力を受けた女性382名、孤児344名、最貧困層34名）		
受益者カテゴリー	元子ども兵、紛争被害者（性的暴力の被害女性、孤児、最貧困層住民）		



1

孤児など250名の子どもたちへ、初等教育を支援

紛争下で性的暴力を受けた女性たちに、自給食料確保のための農業支援や家畜飼育の技術指導を行いました。共同農場では大雨の影響で豆が不作だったものの、収穫したカッサバ芋の余剰分を粉末化して市場で販売し、その収入で他の食材を確保できました。また、シングルマザーや性的暴力を受けた女性50名への洋裁訓練を行い、全員が一定の技術を習得したほか、すでに洋裁店を開業した受益者へのビジネス支援・収入が不安定であるため収入向上を補完しました。また、主に洋裁技術を学ぶ女性たちを対象に個別カウンセリングを通した心理社会支援を行いました。加えて、新規に250名の元子ども兵や孤児など武装勢力から再び徴兵される恐れのある子どもたちへ鞄や学用品を供与し、初等教育の機会を提供しました。



2

1 初等教育を受けることによって、武装勢力からの徴兵を予防します。2 洋裁の技術訓練に取り組む女性、子どもがその様子を興味深そうに観察しています。

7 ［ コンゴ ］紛争の影響を受けた脆弱層に対する社会経済的統合促進プロジェクト ～乳製品のバリューチェーンの構築・強化及び協同組合組織化支援～

事業の目的	対象者が付加価値の高い乳製品を生産・販売し収入を向上させるとともに、相互扶助の重要性を理解し、協同組合が組織される		
事業地域	コンゴ/南キブ州、ウビラ行政区 イタラ区域	受益者数(累計)	250世帯（約1,500名）
受益者カテゴリー	紛争の影響を受けた脆弱層 （紛争被害女性、最貧困層）	事業実施期間	2017年8月～2018年3月

チーズの製造・販売から、生活の自立を目指して



対象者がチーズの製造技術、乳製品のパッケージング技術を習得し、乳製品の販売を開始しました。また、安全かつ受益者同士が協力して活動をするための施設が建設・整備され、協同組合の組織化（行政への登録）を完了することができました。乳製品の製造をグループ毎に行い、それぞれの収入は向上していますが、組合の運営または資金管理については、引き続きフォローアップしていく必要性があります。

8 ［ ブルンジ ］青少年パイロットプロジェクト

事業の目的	対象地域の青少年がスポーツを通して、さまざまな困難に適応していく身体的、精神的な強靭性を身につけること		
事業地域	ブルンジ/ムランビヤ県 キガンダ郡	受益者数(累計)	約120名
受益者カテゴリー	紛争被害者及び最貧困層住民 青少年	事業実施期間	2016年4月～2018年3月

最貧困層や紛争の被害にあった青少年へ、サッカーや伝統ダンスの機会を提供



地元のサッカーチームが育成され、郡の大会で2位になるなどの成績を収めました。また、子どもたちの伝統ダンスチームは、村への訪問者や村人たちに伝統ダンスを披露し、地元の人々に楽しみを与えることができたとともに、双方ともが地元の文化や伝統に誇りを持つ機会を提供することができました。

9 ［ ブルンジ ］紛争被害者及び貧困層住民の能力開発を通したレジリエンス向上プロジェクト

事業の目的	紛争被害者が生計向上のための能力を開発するとともに、コミュニティビジネス（生産者協同組合）が組織され、持続的なコミュニティの収入源が確保されること		
事業地域	ブルンジ/ムランビヤ県 キガンダ郡	受益者数(累計)	98世帯 約600名 若年層住民約300名
受益者カテゴリー	紛争被害者及び最貧困層住民	事業実施期間	2015年4月～2018年3月







養蜂・窯業製品の販売促進に注力したほか、農作物の一次加工技術訓練を開始

これまでに実施した養蜂・窯業の技術支援に加え、今年度は新たに、農作物の一次加工技術訓練を実施しました。これにより、受益者が新たな収入源を確保することができ、また、これまで遠方で加工処理をせざるを得なかった住民からは同サービスへの感謝の声が多く聞かれました。加えて、今年度、政府主催の見本市で養蜂・窯業製品を販売し、これまで以上に販売促進の機会を得ることができました。また、リスク管理ワークショップの実施などを通して、各技術を習得した受益者が生産・販売・出荷を協力して行う生産者協同組合の組織化支援を行い、受益者が独立したビジネスの運営を開始し、自立と自治に向けての一歩を踏み出しました。

1 農作物の一次加工訓練（キャッサバなどの粉末化）の様子。
2 政府への組合登録を完了した養蜂・窯業の各組合のリーダーたち。
3 政府の見本市で養蜂・窯業製品を販売する受益者。



本写真は、「3.11メッセージフォト展「未来をつくり出す力は、東北にある。」にて掲示されました。
（復興庁：2018年3月9日～11日東京駅イベントスペースにて開催）

ファッションブランドとのコラボレーションで、刺し子の仕事への尊さを感じました

使い古して役に立たなくなった布や、ぼろぼろの生地、着古して破れた継ぎはぎだらけの衣服のことを襤褸(ぼろ)といいます。その襤褸を蘇らせ、ファッションとして新しい息を吹き込む洋服づくりをしているブランド、KUONさま（以下、敬称略）。大槌刺し子プロジェクトはそのパートナーとして、2015年からKUONで使用される襤褸の補修を担当しています。

2018年3月のAmazon Fashion Week Tokyoでは、そのKUONがファッションショーを行い、バディーズや刺し子さんもご招待いただきました。参加したのは、刺し子さん代表の大澤美恵子さんと釜石恭子さん。ボロボロだった生地が蘇ったジャケットを着てランウェイを歩くモデルさん。それを見た2人も自分たちの仕事の尊さを感じたと言います。あらためて、物の大切さを考え、物づくりに励みたいと決意する新しい経験となりました。



Photo by MAKOTO HOSHINO

大槌復興刺し子プロジェクト

2017 → 2018 Otsuchi Sashiko Project JAPAN

大槌復興刺し子プロジェクトでは、日本に昔から伝わる手仕事の一つである「刺し子」を活用した商品の企画・製作・販売を行っています。製品の作り手である「刺し子さん」として活躍するのは、岩手県大槌町で、東日本大震災により被災された中高年の女性の方々。2017年度は事務所の移転もあり、心機一転。新しい事務所は手狭ながらも、いつも刺し子さんの笑いが絶えない場となり、2017年度は新しく5名の刺し子さんが仲間入りしました。恒例となった「技術講習会」、外国からのお客様の事務所訪問の受け入れ、催事出展など、今年度も様々な活動を実施することができました。活動による2017年度の売上は、約1,290万円、刺し子さんには約250万円を工賃としてお支払いしました。



［ 日本 岩手事務所 ］
大槌復興刺し子プロジェクト
マネージャー
吉田 真衣

課題と展望　チーム体制の強化、オンライン販売改善に注力

2017年夏に事務所を移転したことをきっかけに、プロジェクト・マネージャー吉田の大槌事務所の常駐を廃止しました。これを契機に、現在は、バディーズ(地元のパート職員)の3人が刺し子会の運営、生産管理、会計作業など、事務所運営を担っています。今後は、売上や経費など、経営の根幹部分もバディーズと共有しながら、生産、販売面の課題をともに解決していくことができるようなチーム体制を作っていくことが目標です。また、2021年度の別法人化に向けて、2018年度より刺し子さんとの方針会議を開催しています。刺し子さんにもプロジェクトの現状を伝えることで、プロジェクトに対して自分ができることを一緒に考えてもらえるようにしたいです。

加えて、この3年間、販路の拡大に努めてきたことが実り、百貨店等の催事出展が増加、売上にも貢献している一方、オンラインショップによる売上が低下したまま改善することができていません。そのため、2018年度はバディーズらとともに、オンラインショップの売上改善にも注力したいです。

1 大槌復興刺し子プロジェクト

事業の目的	東日本大震災により、甚大な被害を受けた岩手県大槌町にて、東北の伝統技術である「刺し子」商品の制作、販売を通じて、継続的な地元人材雇用や、作り手の女性たちの収入・生き甲斐の創出を目的とする。また、商品製作にあたり、技術講習会などを行い、受益者の相互交流を活性化させ、心理的社会負担の軽減を図る 本事業による継続的な手仕事の提供、地元人材の雇用創出、事業を通した地域活性化への貢献のため、東日本大震災から10年後の2021年までに、NPO法人テラ・ルネッサンスから、独立採算による別法人化を果たし、地元職員と地元住民による運営を目指す		
事業地域	日本	受益者数(累計)	191名
受益者カテゴリー	東日本大震災の被災地域の女性	事業実施期間	2011年6月～継続中



1

新商品『合財袋』を開発、催事などで好評発売中

2017年度の大槌刺し子では、刺し子さんの手によって、新しい商品が生み出されました。今年度も技術の向上を目的に、全3回の講習を実施。刺し子さんにもプロジェクトの担い手としての意識を高めてもらう(オーナーシップの醸成)という目的から、新しい技術を学ぶだけでなく、商品企画から刺し子さんと一緒に取り組みました。1回目の講習会では、現在の販路など現状把握をするとともに、作りたい商品のアイデア出しを行い、みんなで製作する商品を決定しました。続く2回目は、刺し方について講師の二ツ谷恵子さんから指導を受け、3回目は一連の講習会の振り返りを行うとともに、自分たちが使っている草木染めの糸について知るなど、商品知識を深めました。出来上がった商品は、大槌刺し子のロゴマークを中央にあしらったデザインを含む2種類の合財袋。それぞれ、刺し子さんのオリジナリティーが発揮された商品として催事などで好評発売中です。※この事業の一部は、『東日本大震災復興支援「JT NPO応援プロジェクト」』の助成を受けて実施しました。



2

1 完成した合財袋を披露する、大槌の刺し子さんたち。2 合財袋のデザインはそれぞれに異なるため、お気に入りの一点を手にいれることができます。



ソーシャルプロダクツ・アワード2018を受賞 「社会性」と「商品性」を評価いただきました

2017年秋に発売を開始した、大槌刺し子はじめてのキット商品「みやびふきんキット～変わり花十字～」が、ソーシャルプロダクツ・アワード2018を受賞しました。ソーシャルプロダクツ・アワードとは、環境や人・社会への配慮である「社会性」と、品質や機能、デザインなどの「商品性」の両方を兼ね備えた商品・サービスを表彰する賞です。私たちの商品も、「社会性」を審査される一次審査と「商品性」を審査される二次審査を経て、見事、受賞対象に選定されました。

特に、二次審査では、審査員による審査の他に、一般生活者による審査も行われたとのこと。一般の皆さまにも高評価をいただき、大変嬉しく思います。審査員からは、「生活者がこの刺し子をひと針、ひと針縫う時に、手仕事の大切さや東北の人たちへの想いを馳せることができる」と評価をいただきました。







みやびふきんキット～変わり花十字～(全3色)
3,800円(内税)

＼ 大好評、販売中です ／

大人気の刺し子キットは、ご自宅用にも、プレゼントにもおすすめです。商品のお買い求めは、公式サイトをご覧ください。

大槌刺し子 検索
https://sashiko.jp/



ロハスフェスタでペーパービーズアクセサリー制作体験会を実施。
多くの親子連れに参加いただきました。

＼啓発事業・活動トピック／

「受験勉強と両立しながら、書き損じはがきで途上国支援」
枚方市立さだ中学校3年生めぐプロの皆さん



栗田の講演を聴き、「私たちも誰かの役に立ちたい!」と感じた生徒10名が、校内で集めた書き損じはがきで支援をするため「めぐプロ」とチームを名づけ、活動を始めました。
ポスターの作成、全校集会での寄付協力の呼びかけなど、全校生徒にプロジェクトを伝える工夫をして、838枚もの書き損じはがきを集めてくださいました。生徒さんは「中学卒業後もボランティアや国際協力に参加したい」「中学卒業と同時にこの活動をやめてしまうのではなく、今度は自分自身がこのような活動を始めるきっかけの人になりたい」と話してくれました。そして、「めぐプロ」の活動は10名の思いとともに後輩たちへ受け継がれています。

啓発事業

2017 → 2018 AWARENESS RAISING PROJECT JAPAN

海外事業地での国際協力、政策提言とともにテラ・ルネッサンスの活動の柱になっている「啓発」。アウェアネスレイジングチームが中心となり、ひとりでも多くの方にテラ・ルネッサンスが取り組む課題、そしてその課題解決に向けた取り組みを知っていただくために、全国各地で講演活動やイベントへの出展を積極的に行っています。さらに、めぐるプロジェクトとして書き損じハガキ、不要になった携帯電話、キフ★ブック（古本等）、フクサポ（衣類等）、コシサポ（古紙）、アルサポ（アルミホイール）の支援協力の呼びかけや、書籍、ウガンダコーヒーの販売を行うことで、誰でもできる具体的な参画の仕組みを設け、年齢関係なく個人でも法人でも、それぞれの立場でできる身近な国際協力を提案しています。



［ 日本 京都事務局 ］
アウェアネスレイジングチーム
マネージャー
栗田 佳典

課題と展望

ソーシャルインパクト（社会的影響）の抽出

2017年度は18,061人を対象に、161回の講演会を実施しました。しかし私たちは、啓発において重要なのは、対象人数や回数だけでなく、参加者にどのような影響を与えることができたのかというソーシャルインパクト（社会的影響）だと考えています。

2017年度、アウェアネスレイジングチームでは、啓発によっての成果を具体的に数値化し、ソーシャルインパクトを測り、評価するため統計を開始しました。これまで開催したイベントや講演の数など、膨大なデータの中から何をどのように抽出するのか、これから収集するデータはどのような情報を取得すればよいのかを話し合いながら、試行錯誤のチャレンジを進めています（実際に高校生を対象に行った基礎調査報告はP.29ページをご覧ください）。今後は講演アンケートによる調査だけでなく、当会のインターンシップ生など、以前に関わった方々へのヒアリングなども実施したいと考えています。当データが形になれば、当会の具体的な「社会を変える力」を表現することができると、私は考えています。

啓発事業のプロジェクト概要と成果

（1）めぐるプロジェクト　2017年度協力者数：16,499名・団体

古着、古本、書き損じはがき、使用済み携帯電話、古紙、アルミホイールの回収の呼びかけを行いました。書き損じはがきの回収を強化するめぐるキャンペーン2017では、555,951円の資金を獲得し、また古着を集めるフクサポにおいては、16,030件の協力となり年々、その協力者を増やしています。

（2）スタディツアー　参加者数：14名

カンボジアとラオスのスタディツアーを実施しました。カンボジアでは、京都市ユースサービス協会との協働事業として取り組みました。教職員、学生が主な参加者となり、現地での活動現場の訪問、交流だけでなく、事前・事後学習、報告書作成なども行いました。

【カンボジア】2017年8月5日（土）～2017年8月10日（木）　参加者数 7名
【　ラオス　】2018年3月9日（金）～2018年3月14日（水）　参加者数 7名

（3）物品販売　売上：3,783,438円

ウガンダコーヒーの製品や著書をイベントやインターネットを通して販売しました。コーヒーでは、お歳暮ギフトを実施。3月には鬼丸の新刊が発売され、3月だけで635冊販売しました。

（4）むすぶプロジェクト（募金箱）　設置協力者件数：78件（新規8件20箱）

関連団体への声掛け、講演などでのチラシでの呼びかけを実施、拡大に努めました。

表彰・受賞

- NGO組織力強化大賞2017 担い手育成部門（認定NPO法人国際協力NGOセンター、立正佼成会一食平和基金）
- 第2回 これからの1000年を紡ぐ企業認定（京都市ソーシャルイノベーション研究所）
- 第5回 エクセレントNPO大賞 組織力賞ノミネート（「エクセレントNPO」をめざそう市民会議）



1


2

1 あすのkyoto・地域創生フェスタに他NGOと共同出展。訪問される方に活動を紹介しました。
2 フットサルを楽しみながら世界の課題を学ぶフットサルイベントを3回実施しました。

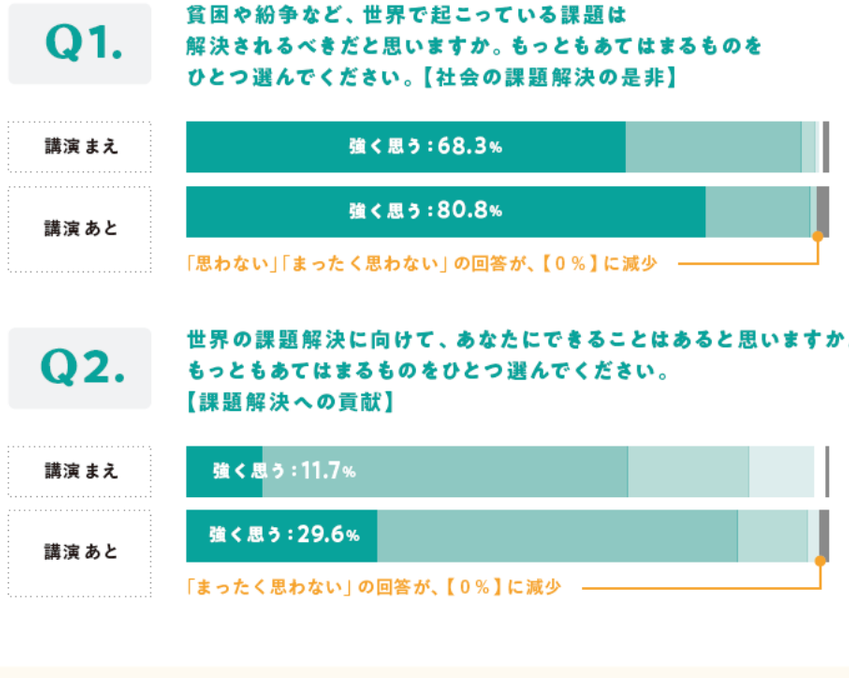
＼啓発事業・活動トピック／

ソーシャルインパクトを評価するため、基礎調査を開始しました

2017年度から、講演の影響力（子ども兵など社会課題の認知と課題解決への貢献意識にどのような変化があったのか）を測定するため、講演の前後においてアンケート調査を開始しました。今回は、京都の高校生240名を対象に実施した調査を報告します。

もともと関心が高かった生徒への講演だったため、「世界の課題は解決されるべきだと思いますか」という質問に対し、「思う」「強く思う」の回答が、講演前後ともに96%でした。一方で、講演後の回答では、「思わない」「全く思わない」の回答がなくなり、「強く思う」の回答が12%増加していることがわかりました。また、「世界の課題解決に向けてあなたにできることはあると思いますか」という質問には、「思う」「強く思う」の回答者が講演前後で17%上昇し、「まったく思わない」の回答がなくなりました。記述の回答を見ても、「ぼくには何もできない」と、講演前には「思わない」を回答した方が、講演後の回答では、「自分にできることで参加したい」など、「強く思う」に回答を変えていることがわかりました。課題解決に向けて、自らの力で解決に貢献していくことの大切さを伝えられているかどうか、今後もデータを集計し、評価をしていきたいと思います。


講演の聞き手に生じた変化を、定量的に測定することで、啓発事業の成果をより正確に捉えるための試みです。



講演実績

※順不同

企業・団体	株式会社マリアージュインベルコ千歳支社 / スマイルプラス烏丸御池センター / 日本ウェストン株式会社 social profit / 株式会社舩井本社 / 株式会社西井製作所 / 株式会社安城自動車学校 株式会社 FIS ソリューションズ / 株式会社ひなたぼっこ / 株式会社 FUJITSU ユニバーシティ リタワークス株式会社 / 鎌倉投信株式会社 / 東京ガス i ネット株式会社 / 株式会社本物研究所 / 近畿労働金庫 医療法人社団恵心会京都武田病院 / 全旅連近畿ブロック PICC 愛知 / PICC 東京 / Social Impact Night / 尾張日経若葉会 / (一財) 舩井幸雄記念館 / GS 研究会セミナー 学生団体シナジー / 島根県立出雲高等学校久徴会 / 立正佼成会浦和教会 / 金光教墨染教会 創価関西国際文化センター / 鬼丸昌也講演会実行委員会 / 精華町自主勉強会「ちゃれんじ創精人」 JICA / 早稲田大学マニフェスト研究所 / NPO いい会社をふやしましょう / (特活) 関西 NGO 協議会 (特活) 名古屋 NGO センター / (特活) ISL / 国連フォーラム関西 / 滝川人づくり大学 / 人間力大学 大阪ユニセフ協会 / 兵庫県ユニセフ協会 / (社福) 大阪ボランティア協会 部落解放・人権政策確立要求京都府実行委員会 / CL ネット / 京都市伏見青少年活動センター (公社) フィランソロピー協会 / 経営実戦塾 / 国際 R.C2650 地区 / 港区倫理法人会 / 仙台宮城野倫理法人会 武蔵野市倫理法人会 / さいたまみその倫理法人会 / いすみ市倫理法人会 / 古河市倫理法人会 いわき市倫理法人会 / 東京中野ライオンズクラブ / 京都南ローターアクトクラブ 東京田園調布ロータリークラブ / 倉敷南ロータリークラブ / 京都伏見ロータリークラブ 大宮ロータリークラブ / 大阪いずみ市民生活協同組合 / 川南町役場職員労働組合
教育機関	豊中市立庄内南小学校 / 京都市立乾隆小学校 / 京都市立開晴小学校 / 京都市立元町小学校 荒川区立ひぐらし小学校 / 羽曳野市立古市南小学校 立命館宇治中学校 / 宇治市立西小倉中学校 / 京都市立大宅中学校 / 京都市立山科中学校 京都市立向島中学校 / 京都市立向島東中学校 / 京都市立朱雀中学校 / 四条畷市立田原中学校 門真市立はすはな中学校 / 箕面市立箕面第五中学校 / 枚方市立さだ中学校 / 亀岡市立亀岡中学校 うきは市立吉井中学校 / 泉大津市立東陽中学校 / 方市立招堤中学校 / 大阪国際大和田中学校 大津市立打出中学校 / 京田辺市立大住中学校 立命館宇治高校 / 島根県立出雲高等学校 / 京都府立西舞鶴高校 / 京都府立福知山高校 / 福知山成美高校 京都廣学館高校 / 和歌山県立笠田高等学校 / 京都市立西京高校 / ノートルダム女子中学高等学校 岡山県立津山東高校 / 大阪府立佐野高校 / 大阪府立すながわ高等支援学校 / 大阪府立福井高校 大阪府立泉北高等学校 / 大阪府立住吉高校 / 大阪府立島本高校 / 京都産業大学附属高校 三重県立川越高校 / 聖母女学院 / 大谷高校 / 札幌新陽高校 神田外語学院 / 神戸大学 / 龍谷大学 / 同志社大学 / 甲南女子大学 / 京都女子大学 / 上智大学 名古屋市立大学 / 創価大学 / 城西国際大学 / 東北芸術工科大学 / 三重大学 / 昭和女子大学 / 中央大学 兵庫大学 / 横浜市立大学 / 神戸市外国語大学
行　政	熊本県庁 / 沖縄自治研修所 / ふくしま自治研修センター / 人事院 長崎県市町村振興協会長崎県市町職員研修センター

メディア掲載実績（重複を除く）

静岡新聞 / 中国新聞 / 日経産業新聞 / 山陽新聞 / 山陰中央新報 / 毎日新聞 / 京都新聞 / 朝日新聞 / 秋田魁新報
国際開発ジャーナル / Forbers JAPAN / ソトコト / THE BIG ISSUE JAPAN / 朝日放送テレビ / NHK-BS1 / KBS ラジオ

NGO組織力強化大賞 担い手育成部門を受賞
受け入れたインターンシップは、のべ100名以上に

2017年度、『NGO組織力強化大賞担い手育成部門』を受賞しました。同賞は、国際協力NGOセンター（JANIC）と立正佼成会一食平和基金の合同事業「NGO切磋琢磨応援プロジェクト」の一環で実施し、NGOの活動を支える組織運営の取り組みを評価・表彰することで、よりよい活動ができるよう支援することを目的に行われたものです。とりわけ、これまでに受け入れてきたインターンシップ生の数（100名以上）、任せた業務の幅の広さ、それに見合う組織としての成果、他団体NGOへの参考事例になる部分を評価いただきました。



授賞式で喜びを語るマネージャーの栗田

各種主催イベントへの出展

2017.05.21	チャリティフットサル（100サル）
2017.05.27	第11回「頑張らない」バドミントンチャリティー大会 【写真：上】
2017.06.28 - 06.30	NPOフェスティバル（一般財団法人 H2Oサンタ）
2017.09.09	KBSラジオ　秋のone day special
2017.09.24	チャリティフットサル（100サル）
2017.09.30 - 10.01	グローバルフェスタ
2017.10.22	千本通り商店街100円商店街
2017.10.29	桜井市西ふれあいフェスタ
2017.11.03	ロハスフェスタ
2017.11.04	清水寺で世界を語る【写真：下】
2017.11.23	あすのkyoto・地域創生フェスタ
2017.11.23	つながるシェ
2017.11.26	京都ヒューマンフェスタ
2017.12.17	KBSラジオ　サンクス66
2017.12.23	ワンワールドフェスティバル　for youth
2018.02.03 - 02.04	ワンワールドフェスティバル
2018.02.17	イオン DE 人権ひろめたい！キャラbang
2018.02.18	BEYOND 2018
2018.03.25	チャリティフットサル（100サル）
2017.10.28, 11.25, 2018.01.27, 02.24,	岡崎マルシェ





テラ・ルネッサンスが、佐賀ではじめた
世界平和のつくり方


1

佐賀県へ進出、九州での活動展開を促進

2017年11月9日、佐賀市内に事務所を設立いたしました。市民活動の活性化などを目的とされている「CSO(NPO)誘致」事業の一環として、佐賀県からお声がけいただいたこと、そして、九州地方での啓発活動、平和への種まきを活性化させたいという想いから、佐賀県での活動を開始しました。設立当初から、県庁の皆さま、NPO,NGO関係者の皆様、そして多くの県民の方々に支えられ、良きスタートを切ることができております。佐賀のNGOと言えば、テラ・ルネッサンス、テラ・ルネッサンスと言えば佐賀、と言われるように、精進し、さらなる平和の輪の拡大に寄与して参ります。

平和教育の講演、ふるさと納税寄付の開始

佐賀事務所での主な事業は、「テラ・カフェ in 佐賀」の定期開催、教育機関での講演、ふるさと納税の活用です。「テラ・カフェ in 佐賀」は毎月開催しており、佐賀事務所スタッフやオンラインを通して海外スタッフから、アフリカやアジアの実情や事業に関する活動報告をお伝えしています。講演では、佐賀県庁との事業も含め、小・中・高校をはじめ、様々な年代に向けて、紛争の悲惨さ、平和の大切さ、日本の生活との関わりなどをお伝えしています。そして、新しい形での活動参画の一つとして、ふるさと納税を活用した寄付の取り組み(次頁参照)も行っています。



2



3

1 知事表敬訪問時の様子。左から、山口祥義佐賀県知事、弊会鬼丸、佐賀未来創造基金の山田さん。2 佐賀県進出記念の盾。3 佐賀事務所スタッフによる学校講演の様子。

ふるさと納税で、活動を応援いただけます

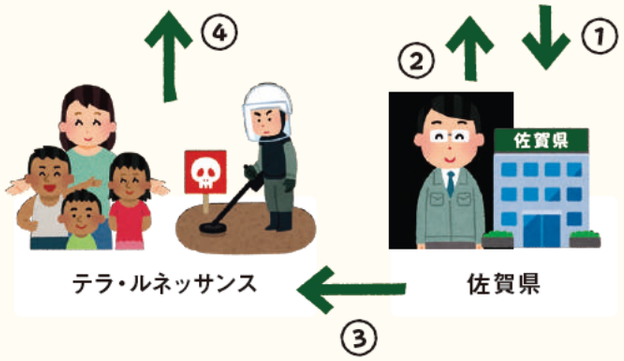
① テラ・ルネッサンスを指定して寄付
下部掲載のURL(またはQRコード)から、お申込みいただけます。

② 寄付受納証明書
佐賀県から証明書が送られます。

③ 寄付の95%がテラ・ルネッサンスへ
いただいた寄付金は、テラ・ルネッサンスの活動に活用いたします。

④ お礼・ご報告をお届けします
テラ・ルネッサンスからお礼状や活動報告書をお送りします。お礼状や寄付金受納証明書の発行には1〜2ヶ月程度、返礼品の発送には1〜3ヶ月程度かかる可能性があります。申し込み多数の際に遅延が生じますので何卒ご了承ください。


ふるさと納税で寄付される方々



金額に応じて、返礼品をお選びいただけます

この他にも、たくさんの返礼品があります！



1万円のご寄付
海苔「有明の風」3点セット



5万円のご寄付
佐賀牛カルビ焼肉 550g



10万円のご寄付
佐賀牛サーロインステーキ 250g×3
佐賀牛切り落とし 700gのセット

ご寄付のお申し込みは下記ページ、または右記 QR コードから
https://www.furusato-tax.jp/city/product/41001/135

ふるさと納税(寄附)について、下記までお問い合わせください

メール **shima@terra-r.jp**（担当：島）

認定NPO法人テラ・ルネッサンス（佐賀事務所）
〒840-0824 佐賀県佐賀市呉服元町2-15
マチノシゴトバ COTOCO215

ご支援くださった企業・団体の皆さま

株式会社アイケイ

株式会社 王宮

株式会社キャリッジウェイ・コンサルティング

国連開発計画（UNDP）
コンゴ民主共和国事務所

宗教法人真如苑

公益財団法人
生協総合研究所

特定非営利活動法人
ドネーションシップわかちあい

公益財団法人 日本国際協力財団

環境と平和のNPO
ネットワーク
『地球村』

株式会社 フェリシモ

株式会社 マリアージュ インベルコ
千歳支社 スタッフ一同

三井物産 株式会社

RisingSword 株式会社

リタワークス株式会社

会津建物管理株式会社 / 有限会社アップライジング / 株式会社いわき / 株式会社ウチヤマホールディングス株式会社 H&N / 一般財団法人 H2O サンタ / 株式会社エグゼクス
かみひとねっとわーく京都 / 頑張らないチャリティバドミントン大会実行委員会 / 京都市保健福祉局保健福祉部保健福祉総務課みやこユニバーサルデザイン推進担当
近畿労働金庫 / Global Support Limited / 株式会社クロスキャット / 株式会社京応 / 株式会社ゲットイット / 興亜商事株式会社 / 特定非営利活動法人コミュニティ時津
特定非営利活動法人コンフロントワールド / 公益財団法人さんりく基金事務局 / 三和パッキング工業株式会社 / 地雷ゼロ宮崎 / 一般社団法人住まい選びコンシェルジュ協会
地球愛祭り 2017in 京都実行委員会 / 株式会社塚腰運送 / TSC 東海 / テラ・ルネッサンス千葉 / 東北店技研クラブ / 徳田印刷株式会社 / 株式会社友田神具店
株式会社西井製作所 / 株式会社 NEWLINE / 株式会社ノア動物病院 / 一般社団法人ビジネスファシリテーション＆コーチングカレッジ / 株式会社ひなたぼっこ
株式会社フジ商設備サービス / 株式会社マジックランプ / 株式会社マジマ生コン / 株式会社みしまや 一般社団法人ユニゾグラフ藝術研究所
YURI ホールディングス株式会社 / 株式会社 RICCI EVERYDAY

※五十音順・敬称略　5万円以上のご支援をいただいた法人・団体の皆さまを掲載しております。

テラ・ルネッサンス 団体概要

（2018年3月末日）

正式名称	特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス	理事長	小川真吾
設立年	2001年（ 2005年 法人格取得、2014年認定NPO法人となる ）		
活動対象国	カンボジア王国 / ラオス人民民主共和国 / ウガンダ共和国 / コンゴ民主共和国 / ブルンジ共和国 / 日本		
海外・国内事務所	本部事務局（ 日本 京都府 ） 佐賀事務所（日本 佐賀県 ） 大槌事務所（ 日本 岩手県 ） カンボジア事務所（ カンボジア王国バッタンバン州 ） - フィールド事務所（バッタンバン州カムリエン郡） ウガンダ事務所（ ウガンダ共和国グル県 ） - フィールド事務所（アジュマニ県パギリニア難民居住区） コンゴ事務所（ コンゴ民主共和国南キブ州 ） - フィールド事務所（南キブ州ブカブ市カロンゲ、カサイ中央州カナンガ市） ブルンジ事務所（ ブルンジ共和国ブジュンブラ市 ） - フィールド事務所（ムランビヤ県キガンダ郡カネグワ村、ムランビヤ県キガンダ郡レンガ村）		
海外における主な協力団体	●カンボジア Mines Advisory Group(MAG) The Department of Agriculture, Forestry, and Fisheries in Battambang Province Community Rural Development and Natural Agriculture for Supporting Environment(CRDNASE) ●ラオス MAG-Lao / UXO-Lao The Agricultural and Forestry Office of Pek District, Xieng Khouang Province ●ウガンダ [redacted] World Vision Ugada Refugee Law Project / The Center for Victims of Torture Gulu NGO Forum / Uganda Action Network on Small Arms(UANSA) ●ブルンジ Centre de Formation pour le Développement des Anciens Combattants (CEDAC)		

理事	小川真吾 / 鬼丸昌也 / 中井隆栄 / 岡田則子 / 新居真衣
監事	鯉田勝紀（ 公認会計士・税理士 / 鯉田会計事務所 ）
スタッフ	●本部事務局（京都） 有給専従職員 6名 有給非専従職員 1名 インターン 26名 ●大槌事務所（岩手） 有給専従職員 1名 有給非専従職員 3名 ●佐賀事務所（佐賀） 有給専従職員 1名 ●カンボジア事務所 日本人有給職員 2名 カンボジアローカルスタッフ 10名 ラオスローカルスタッフ 2名 ●ウガンダ事務所 日本人有給職員 1名 ローカルスタッフ 29名 ●コンゴ事務所 ローカルスタッフ 13名 ●ブルンジ事務所 日本人有給職員 2名 ローカルスタッフ 6名
会員数	ファンクラブ会員 1,451名 / 正会員 81名 / 個人賛助会員 156名 / ジュニア賛助会員 6名 / 団体賛助会員 76団体 法人サポーター 76 団体 【 定款上の会員合計 1,770 名・団体 】
加盟団体	(特活)関西ＮＧＯ協議会 / (特活)国際協力 NGO センター / 日本小型武器行動ネットワーク (特活)地雷廃絶日本キャンペーン / 児童労働ネットワーク / SDGｓ市民社会ネットワーク 市民ネットワーク forTICAD / 新公益連盟 / 京都経営品質協議会 Uganda Action Network on Small Arms(UANSA) / The International Action Network on Small Arms(IANSA) Child Soldiers International / Gulu NGO Forum

2017年度決算ならびに2018年度予算

（単位：円）

Ⅰ 経常収益の部			2017年度 予算	2017年度 決算	2018年度 予算
1. 会費収入			42,000,000	38,395,867	46,000,000
2. 寄付収入			72,500,000	61,094,452	82,000,000
3. 事業収入			29,000,000	24,741,273	26,700,000
4. 助成金等収入			59,000,000	89,696,260	118,500,000
5. その他収入			300,000	2,028,070	11,750,000
経常収益合計			202,800,000	215,955,922	284,950,000
Ⅱ 経常費用の部					
1. 事業部門	海外事業	カンボジア事業	47,285,000	41,684,639	35,929,696
		ラオス事業	6,297,000	8,385,565	15,069,721
		ウガンダ事業	24,522,000	35,613,144	47,709,464
		コンゴ事業	12,543,000	24,117,392	65,323,015
		ブルンジ事業	26,921,000	27,205,797	23,834,162
	国内事業	東日本大震災復興支援事業	19,794,000	21,639,343	20,900,986
		啓発事業	13,942,000	13,438,443	15,051,764
		広報・資金調達事業	33,913,000	26,451,842	42,657,154
		アドボカシー（政策提言）	1,021,000	915,915	1,183,619
2. 管理部門			15,405,000	6,975,592	24,118,968
経常費用合計			201,643,000	206,427,672	291,778,549
当期経常増減額			1,157,000	9,528,250	▲ 6,828,549

国際協力事業費明細

（単位：円）

カンボジア事業	現地管理費	1,956,606
	地雷撤去支援プロジェクト	1,090,385
	地雷埋設地域村落開発支援プロジェクト	9,216,229
	地雷埋設地域の脆弱な障害者家族への生計向上支援プロジェクト	29,421,419
	合　　計	41,684,639
ラオス事業	不発弾撤去支援プロジェクト	3,279,088
	不発弾汚染地域村落開発を通したコミュニティ・レジリエンス向上支援プロジェクト	370,411
	産学民連携による持続可能な森林保全のための自然共生型産業の普及活動 ラオス不発弾汚染地域における養蜂の技術向上と普及を目指した“farm miel”プロジェクト"	4,666,551
	ラオス不発弾問題啓発プロジェクト	69,515
	合　　計	8,385,565
ウガンダ事業	元子ども兵社会復帰支援プロジェクト	15,956,492
	不法小型武器問題啓発プロジェクト	110,830
	農業・畜産支援による貧困削減事業に係る後方支援事業	8,379,136
	南スーダン難民居住区におけるPSNsに対するオーダーメイド型人道支援プロジェクト	4,944,141
	南スーダン難民居住区及びホストコミュニティにおける自立支援プロジェクト	4,977,812
	元子ども兵社会復帰支援プロジェクトにおける長期的インパクト評価事業	1,244,733
	合　　計	35,613,144
コンゴ事業	元子ども兵及び紛争被害者エンパワーメントプロジェクト	9,447,662
	紛争の影響を受けた脆弱層に対する社会経済的統合促進プロジェクト ～乳製品のバリューチェーンの構築・強化及び協同組合組織化支援～	14,669,730
	合　　計	24,117,392
ブルンジ事業	紛争被害者及び貧困層住民の能力開発を通したレジリエンス向上プロジェクト	23,253,723
	伝統ダンス教室開催を通した心理社会支援プロジェクト	446,856
	少年サッカーアカデミープロジェクト	411,763
	グローブハウス4（自立支援施設）建設プロジェクト	3,093,456
	合　　計	27,205,797

助成金内訳

（単位：円）

助成機関　※順不同	金額
1. 公益財団法人 生協総合研究所 アジア生協協力基金	999,000
2. 公益財団法人 日本国際協力財団	15,000,000
3. 公益財団法人 日本国際協力財団	6,442,652
4. 京都市 ユニバーサル上映補助金	150,000
5. 公益財団法人 さんりく基金	428,000
6. 独立行政法人 国際協力機構 草の根技術協力事業	28,593,000
7. 三井物産株式会社 三井物産環境基金	6,500,000
8. 国連開発計画	11,038,411
9. 外務省 日本NGO連携無償資金協力	18,545,197
10.宗教法人 真如苑	2,000,000

［ 上記に伴う各案件名 ］
(1) ロカブッス村協同組合組織化によるコミュニティ・レジリエンス向上支援事業 / (2) ブルンジにおける紛争被害者及び最貧困層住民の能力開発を通したコミュニティレジリエンス向上プロジェクト
(3) ウガンダ北部における農業・畜産支援による貧困削減事業に係る後方支援事業 / (4)Cinema for Africa　グッドライ～いちばん優しい嘘～　ユニバーサル上映会＋アフリカの今を伝える報告会
(5) 新商品「刺し子キット」の開発とコミュニティマーケティングの実践 / (6) 地雷埋設地域の脆弱な障害者家族への生計向上支援プロジェクト
(7) 産学民連携による持続可能な森林保全のための自然共生型産業の普及活動 ラオス不発弾汚染地域における養蜂の技術向上と普及を目指した "Farm miel" プロジェクト
(8) 紛争の影響を受けた脆弱層に対する社会経済的統合促進プロジェクト～乳製品のバリューチェーンの構築・強化及び協同組合組織化支援～
(9) 南スーダン難民居住区及びホストコミュニティにおける自立支援プロジェクト / (10) コンゴ東部における元子ども兵及び紛争被害者支援プロジェクト

貸借対照表（2018年3月31日 現在）

（単位：円）

Ⅰ 資産の部			Ⅱ 負債の部		
1. 流動資産			1. 流動負債		
現金預金	47,838,742		買掛金	489,276	
売掛金	2,220,060		未払金	4,737,017	
未収金	3,511,734		前受金	138,580	
商品	6,624,588		預り金	357,112	
立替金	204,490		未払法人税等	209,500	
マイクロクレジット	1,444,735		未払消費税等	52,300	
流動資産合計	61,844,349		流動負債合計	5,983,785	
2. 固定資産			2. 固定負債		
有形固定資産	14,031,754		長期借入金	10,373,622	
投資その他の資産	490,000		固定負債合計	10,373,622	
固定資産合計	14,521,754		負債合計	16,357,407	
資産合計	76,366,103		Ⅲ 正味財産の部		
			前期繰越正味財産	50,694,317	
			当期正味財産増減額	9,314,379	
			正味財産合計	60,008,696	
			負債及び正味財産合計	76,366,103	

監査報告書

2018 年 5 月 25 日

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス　理事長　小川真吾　殿

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス　監事　鯉田勝紀

私は、平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの平成 29 年度における会計及び業務の監査を行い、次の通り報告する。

1、監査の方法概要
（1）会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など、必要と思われる監査手法を用いて計算書類の正確性を検討した。
（2）業務監査について、理事から業務の報告を徴収し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて、業務執行の妥当性を検討した。

2、監査意見
（1）活動計算書、貸借対照表及び財産目録は会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支状況及び財産状態を正しく表示していると認める。
（2）業務報告書の内容は真実であることを認める。（3）理事の業務執行に関する不正の行為、又は法令もしくは定款に違反する重大な事項はないと認める。　以上

原本は別途保管しております。



表紙のはなし

カンボジアのプレア・プット村に住むソッピアーさん
かつては日雇い労働以外に、
収入を得るための手段を持っていませんでした
支援を通して少しずつ、変化があらわれています

雨がたくさん降り、水を十分に確保できる季節には、
家庭菜園に熱心に取り組みます

ナスやトウガラシ、マメ、葉物など
たくさんの種類の野菜を育てるようになりました

収穫した野菜は自身の家族で食べるだけではありません
村にある幼稚園の給食用食材として提供したり、
同じ村に住む人たちに無償で配ったりしています

いつも満面の笑顔で話しかけてくれるソッピアーさんの心には、
周りの人に幸せになってほしいという願いがあるそうです
そのために、まずは自分が笑顔でいることが大切なのだと

周囲の人々と丁寧に関係性を築き、
笑顔を大切に過ごしている彼の姿は、
「世界平和」が実現する日がいつか、
必ずやってくるという希望を与えてくれます

Terra Renaissance
ひとり一人に未来をつくる力がある
認定NPO法人 テラ・ルネッサンス

〒600-8191 京都府京都市下京区五条高倉角堺町21番地 jimukinoueda bldg. 403号室
TEL：075-741-8786　FAX：075-741-7965　E-mail：contact@terra-r.jp
HP：www.terra-r.jp　Facebook：terra.ngo　Twitter：@terra_ngo